

歴 史 的 建 造 物

1907(明治 44)年に東北帝国大学が創設された本学発祥の地であり、昭和 40 年代前半までは多数の学部・研究所が集まった大学のメインキャンパスでした。 青葉山・川内キャンパスへ工学部などの移転整備が進められた以降は、金属材料研究所、電気通信研究所などの世界的な研究成果を挙げている研究所や大学本部を中心とするキャン パスとして整備が進められてきました。

最近では、旧東北帝国大学工学部金属工学教室(大正 14 年建設)の外壁を保存し改築した WPI-AIMR 本館などが整備されているほか、キャンパス内の豊かな緑と近代建築が評価され、 仙台市の「都市景観大賞」や、せんだいデザインウィークの「伝統デザイン賞」、「都市景観の日」実行委員会主催の都市景観大賞特別賞を受賞しています。

● 東北大学正門

大正14(1925)年 に建造された御影 石の門。当時、相 当な金額をかけて 造られました。

門が街の中心部と は違う方向に開か れているのは仙台 城を意識している ためだといわれて います。

6 東北大学本部棟3↓

(旧仙台医学専門学校博物・理化学教室)

明治37(1904)年築の仙台医学専門学校の建築

的遺構。東北帝大理学部地質学教室、保健管理

センターなどに利用された後、現在は公開施設

等として利用しています。(登録有形文化財)

(旧東北帝国大学理学部生物学教室)

送大学として使用されています。

大正12(1923)年に建てられた仙台初のRC 造で、

ゼツェッション様式の玄関廻りや片平丁から見

える円形コーナーが美しい建物です。現在は放



❷ 東北大学史料館

大正15(1926)年に建 設された旧東北帝国大 学附属図書館。現在では、 百年にわたる東北大学 の記録文書をはじめ、 東北大学やその構成員 に関する歴史的資料を 保存・公開する史料館 として、様々な企画展 を開催し、公開してい ます。(登録有形文化財)

歴史的建造物

キャンパス入口



企文化財収蔵庫

①21世紀ITセンター

❸ 東北大学本部棟 1 →

昭和2(1927)、7(1932)。 9(1934) 年と3期に渡っ て建てられた旧東北帝国大 学理学部化学教室は、大規 模な改修を経て大学本部棟 1として利用されています。 スクラッチタイルの表情と 周りの緑が相まって、学都 仙台のシンボルといえるよ うな雰囲気があります。 (登録有形文化財)



●魯迅の階段教室

④ 魯迅の階段教室→

明治37(1904)年に 建てられた、仙台医 学専門学校の建築的 遺構(医専六号教 室)。魯迅が学んだ 校舎としても貴重で あり、事前予約に応 じて公開していま す。(詳細は東北大 学広報課まで) (登録有形文化財)

6放送大学



7 本多記念館↓

昭和18(1943)年に第6代総長本多光太郎

所長室や直筆のノートなどが閲覧出来ます。



② 会計大学院研究棟↓

大正14(1925)年に建てられた旧法文学



の功績を記念し建てられた建物。建設が戦 時中で、鉄筋の手配等が非常に困難だった そうです。



部2号館。片平キャンパスに現存する近代 建築の保存を推進する市民団体「片平キャ ンパストラストファンド」から、復元した 玄関照明が寄贈されました。



6 放送大学↓

WPI-AIMR 本館と北門→ (旧東北帝国大学工学部 金属工学教室外壁)

大正13(1924)年に建てられ た建物を外壁を残し改築。ス クラッチタイルの創り出す落 ち着いた雰囲気は片平キャン パスの顔として80年以上親し まれています。また北門周辺 も開かれたキャンパスとして 塀や門扉を撤去しポケット パーク状に再生しました。



⑩多元物質科学研究所

南1号館+事務部棟

⑩多元研事務部棟

東北帝国大学工学部の機 械・電気工学教室として 昭和5(1930)年に建て られた本学工学部の歴史 を伝える建物です。 エントランスホールが帝 国大学の気品を残してい

ます。



1021世紀 ITセンター→

仙台高等工業の建築学 科であり、南六軒丁に 向けたゲートとして昭 和5(1930)年に造られ、 一時は東北大学の建築 学科としても使用され

表現主義的デザインが されており、仙台高等 工業のマーク入り煉瓦 アーチも特徴的です。



№ 文化財収蔵庫→

片平北門会館(食堂,売店)

(旧第二高等学校書庫)

明治43 (1910)年ごろ に建てられた仙台に残 る明治期煉瓦造建築の 貴重な例。

明治維新後、全国に建 てられた煉瓦造建築の 歴史を伝える遺構であ り、仙台では他に例が なく貴重な都市財産で す。(登録有形文化財)





片平キャンパス 記念碑・保存樹木

1907 (明治 44) 年に東北帝国大学が創設された本学発祥の地である片平キャンパスには、東北大学の記念碑等だけでなく、東北大学の前身である東北帝国大学、仙台医学専門学校、 第二高等学校、仙台高等工業学校、宮城県女子専門学校などの多くの記念碑が残されています。 また、古くから学術エリアとして利用されてきたことから、仙台市の保存樹木や歴史的意味のある並木・樹木が多く、都市の中のキャンパスでありながら緑豊かな景観・環境を維持

スポットになっ

ています。



② 仙台医学専門学校跡 の碑→

明治34 (1901) 年に創設され、魯迅も学んだ 働され、魯迅も学んだ 仙台医学専門学校の記 念碑。明治45 (1912) 年に東北帝国大学に包 摂され医学専門部とな り、その後東北帝国大学 をり、その後東北帝国大学 が設置され まりた。



❷ 宮城県女子専門学校の碑→

しており、学内のみならず広く市民に開かれた憩いの場として活用されています。

大正 15 (1926) 年に創設された宮城県女子田・創まされた宮城県女子の公立では3番目の公立では3番目の女子専門学校として設立。学制改革で東半部を下来、大学に併合され、農学部家は1560 (1960) 年廃止)。



④ 第二高等学校校門・記念碑→

大正8 (1919) 年に 設立された旧制第二 高等学校の煉瓦造り の校門と記念碑。 第二高等学校は昭和 24 (1949) 年、東北 大学に包括され、昭 和 25 (1950) 年 廃 止になりました。



❸ 法文学部発祥之地の碑

* Co.

大正11(1922)年に東北 帝大唯一の文科系学部と して設置された法文学部 の記念碑。

大正14(1925)年に建て られた旧法文学部2号館 は、現在も会計大学院研 究棟として活用されてい ます。



(3) 仙台高等工業学校跡記念碑↓

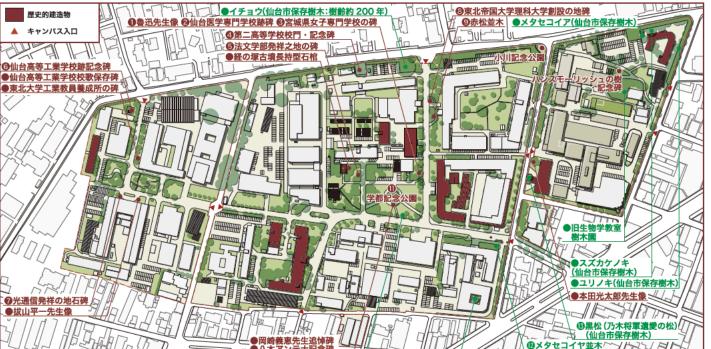
明治39 (1906) 年に創設された仙台工業高等学 校跡の記念碑。明治 45 (1912) 年に東北帝国大 学に包摂されたが大正10 (1921) 年に再び分離 独立。学制改革で工学部の母体になりました。



7 光通信発祥の地石碑 ↓

元東北大学総長の西澤潤一博士による光通信関連の先駆的な技術の研究・開発の業績を讃えて、 元スタンレー電気社長の手島透氏によって建て られた石碑。





❸ 東北帝国大学理科大学創設の地碑 ↓

明治44(1911)年設立の東北帝国大学理科 大学の記念碑。大正2(1913)年には東北 帝大・理科大学の開学式が片平で盛大に行 われました。式典・祝宴・記念講演などが 催され、その後5日間にわたり学内を一般 公開。多くの市民が、真新しい校舎や 珍しい実験器具・標本類を見学しました。



⑤ 赤松並木とエクステンション教育研究棟

法文学部と共に整備された赤松の並木と仙 台城を向く正門からの軸線上のアイストッ ブとなるエクステンション教育研究棟の塔 のロゴマークが片平キャンパスのシンポル 的な空間を作り出しています。



⑩黒松並木と枝垂桜→

北門からの南北の通りは元禄 のころから桜小路と呼ばれて きました。

この通り沿いの黒松並木は第七代東北帝国大学総長熊谷岱蔵博士が昭和15年に亘理郡浜吉田付近から移植したものです。また枝垂桜は慶応元(1865)年仙台に移住した鋳物師東海林嘉吉により寄進されたものの一部です。



① 学都記念公園→

旧制第二高等学校の 校庭であった中央の 広場は、普段は近隣 の市民や保育園児の 散歩右コースとして、 また春には桜の下、 多くの花見で賑わい ます。

今後、さらに魅力的 な開かれた広場とし て整備する計画です。



・
の黒松並木と枝垂桜

(12) メタセコイア並木→

●井上先生の枝垂桜

東北大学名誉教授西澤蘇助博士の退官を記念して昭和31 (1956) 年に植えられました。 メタセコイアは「生きた化石」として昭和20(1945) 年に中国四川省で発見されました。 この並木は昭和25 (1950) 年アメリカで育て日本に送られた百の原株から挿木として育てられたもので、北門周辺の景観を秘豊かにしています。



⑤ 黒松 (乃木将軍遺愛の松)→

仙台市の保存樹木の樹齢約200年の黒松。木の下には石碑があり「乃木将軍遺愛の松/本多光大郎警書」とあり軍事第二師団長多時代の官舎本部であったが、本事業のために買収した土地に、も舎があっために宣舎であった土地生生が、はいておりその松を本わます。情しまれたのだと思われます。



©Tohoku University A. Rights Reserve